

北日本新聞八月二十四日一面の

富山の救急医療充実の記事を読んで

射水市立小杉南中学校一年 境 公士朗

「ドンツ」その音が聞こえた時、目の前で
 車と車が衝突していた。幸いにも大したこと
 はなかったようだが、もしそこに自分がいて
 事故に遭っていたらと思うとゾツとした。改
 めて交通事故の恐ろしさを感ずることになっ
 たが、人は事故に遭った時、早急に治療する
 ことができるのか、病院まで距離があつて遠
 い時、救急車での搬送で果たして患者さんは
 助かるのかと疑問に思った。

そんな中、富山県でドクターヘリの運搬が
 始まるという記事を見つけた。どうやら、ヘ
 リの導入で本来救うことのできなかつた命の
 四割を救うことができるようになるそうだ。
 その時、交通事故のことが頭に浮かんだ。救
 命救急において生死を分ける最も重要な因子

は時間であって、適切な治療を受けらるまでの時間が短いほど、生存の可能性が高まる。国内最速の時速289kmで搬送ができれば、後遺症が残る患者も半減しそうだ。全国三十八道府県目の導入ということであり、全国的に遅めの導入であるが高齢者の搬送が毎年千件ずつ増え、病院搬送までの時間が長くなってきたため、今では必要不可欠な存在となっている。

10
ところで何よりも驚いたのはそのスピードで、岐阜県飛騨地域北部をもカバーしている他、空からの救助となるため救急車では入ることのできなかつた場所にも入ることができ、山岳事故での救命率向上にも大いに役立つこととなる。山間部の多い富山の地形には、ドクターヘリはなくてはならないものだと思う。ドクターヘリが出動した場合、救急車での搬送に比べて医師による初期治療までかかる時間がなんと二十二分も短縮され、県内からの出動要請では十五分以内で到着するそうだ。

別名「空飛ぶ救命室」とも呼ばれているドクターヘリ。そのドクターヘリによって今も救われ、これまでに救われた人々が多数おられることが、ドクターヘリの存在の重要性を証明している。

「もう少し早ければ助かっていた…」
このような声をもう聞くことがないような世の中をドクターヘリによってつくりあげることができるのかもしれない。

これまでは人の命や医療について深く考えたことがなかったけれど、この記事に出会ったことによって、救急医療の大切さや、命の存り方についても考えることができた。しかし、何よりも努力すべきなのは健康な生活に心がけ、事故を未然に防ぐよう普段から気をつけることであるとも同時に思った。